



諏訪湖上に設置する観測装置の準備を進めるメンバー。7年目となる水質観測プロジェクトを始動した14日朝、諏訪市の諏訪湖ヨットハーバー

水質観測と発信成果

諏訪湖のプロジェクト活動発表

あらゆるモノをインターネットでつなぐIoT技術を活用し、諏訪地方の課題解決を目指す産学官の「スワ・スマート・ソサエティ(SSS)5・0」は14日、諏訪湖の水

質観測データをリアルタイムで収集発信するプロジェクトについて、昨季の活動成果を発表した。一時的な不具合があったものの、9カ月間にわたって順調に観測と発信がで

きたと説明。水質変化の把握やデータの利活用の面でも成果を得たと総括した。6年目の昨季は昨年3月14日から12月19日まで、湖中心部(湖心)と諏訪市豊田沖にそれぞれ観測装置を設

カメラを初めて搭載。水鳥の観察と太陽光パネルを汚す種の特定に役立てた。6月上旬の大雨後や8月上旬の強風後に、湖底付近の貧酸素状態が解消したことも連続データからつかめたという。

学術研究でデータを用いたことの申し出もあり、諏訪市役所で会見した信州大学諏訪臨湖実験所(同市)の宮原裕一所長は「データの収集や公開だけでなく、どんどん活用してほしいというのが私たちの願い」と歓迎。プロジェクトで中心的な役割を担う金属加工のモルズアクト(同市湖南)は「おおむね順調だった。現在のシステムを引き続き利用して、耐久性を検証していきたい」とした。

14日は会見に先立ち観測装置2機を湖上に設置。7年目の観測をスタートさせた。

装置には太陽光パネルや風量計を備え、2機のうち1機には静止画と動画を撮影できる

(鮎沢健吾)